

ひょうご次世代産業高度化プロジェクト推進協議会 [第2回総会] 議事要旨

1 日 時 平成31年3月4日(月) 13:30~14:30

2 場 所 兵庫県中央労働センター 2階大ホール

3 出席者 別紙1のとおり

4 議事

- (1) 平成30年度プロジェクト実施状況
- (2) 平成31年度プロジェクト実施概要等
- (3) 平成30年度取組事例
- (4) 意見交換(別紙2のとおり)

出席者 38 名（構成員 28 名、オブザーバー 1 名、県・推進協議会事務局 9 名）

構成員（28 名）

林 直樹	兵庫県経営者協会専務理事
小村崎 栄一	兵庫県商工会連合会事務局長兼事業部長
深田 修司	兵庫県中小企業団体中央会専務理事
福永 明	日本労働組合総連合会兵庫県連合会事務局長
坂田 昌隆	一般財団法人兵庫県雇用開発協会理事
瀬川 里志	兵庫県立工業技術センター次長（総括担当）兼総務部長
島田 浩一郎	一般財団法人近畿高エネルギー加工技術研究所専務理事
高原 浩志	公益財団法人計算科学振興財団人材開発グループ長
永田 章彦	公益財団法人神戸医療産業都市推進機構常務理事
飯塚 昌弘	公益財団法人新産業創造研究機構理事兼事務局長
荒木 俊光	公益社団法人兵庫工業会常務理事・事務局長
安部 則行	公益財団法人ひょうご産業活性化センター常務理事兼企画経営室長
山崎 徹	兵庫県立大学副学長兼産学連携・研究推進機構長
井上 健二	神戸大学学術・産業イノベーション創造本部産学連携・知財部門長
橋本 秀樹	関西学院大学大学院理工学研究科副研究科長 理工学部環境・応用化学科 学科長・教授
小川 賢一	株式会社三井住友銀行公共・金融法人部（神戸）部長
猪瀬 啓介	株式会社三菱UFJ銀行調査役
井上 鉄也	株式会社みずほ銀行神戸支店神戸第一部渉外 3 課課長
三木 伸司	株式会社みなと銀行地域戦略部次長
濱中 宏法	播州信用金庫経営企画部長
澤野 年哉	但陽信用金庫事業支援部担当部長
三宅 智章	姫路信用金庫常務理事
岡村 義忠	兵庫県信用組合理事融資部長
山上 豊	兵庫労働局職業安定部職業対策課長
三重野 雅文	神戸市医療・新産業本部医療産業都市部長
志水 達也	神戸市経済観光局経済部長
片山 安孝	兵庫県産業労働部長
安部 斉	兵庫県産業労働部政策労働局長

オブザーバー（1 名）

山田 真司	近畿経済産業局参事官（生産性革命・人材担当）
-------	------------------------

県・推進協議会事務局（9 名）

竹村 英樹	産業労働部産業振興局長
計倉 浩寿	産業労働部政策労働局産業政策課長
富田 恵一	〃 産業政策課政策班長
竹谷 昭宏	〃 労政福祉課長
淵上 茂也	〃 産業振興局工業振興課長
工藤 学	〃 新産業課長
谷口 幸史	〃 産業立地室長
波々伯部 仁	企画県民部科学情報局科学振興課主幹
安達 正志	推進協議会事務局主任プロジェクト推進員

議事要旨（意見交換）

○県産業労働部長

この機会を利用して、4月から始まる外国人の新制度について、県の姿勢を少しご説明する。人手不足に対しては、まず働いていない若者、働いていない女性、経験豊かな高齢者を活用するべきで、その次にAI・IoT等の技術革新によって生産性を向上させなければならない。その次に出てくるのが外国人労働者というのが、私どもの基本姿勢である。

ただ、学生はとにかく東京一極集中で、その中でも女子学生がどんどん都会へ行ってしまふ。次に女性は、出産したときに辞めて再度復帰するという（労働力率が）M字カーブを描く傾向であり、新年度は兵庫工業会に依頼し、ものづくり分野での女性就業を促進する事業を行うことにしている。3つ目の高齢者は、セミナーなど様々な取組を進めているが、高齢者はやはりフルタイムで働くのはなかなか難しいので、柔軟な対応をしていくことが必要である。特に理工系の技術者は、優秀な方々の取り合いとなっている。

次に頼りになるのがAI・IoT関係で、ここに力を入れていこうと思っており、産学官連携で各大学にもご協力をお願いしたい。

県の施策の中で、通常の企業については、やはり金融が一番大事なところであり、中小企業の支援として3,600億円の資金枠を確保している。各金融機関で取り組んでいただいている支援や販路開拓などについても、引き続きご協力をお願いしたい。

県の産業労働行政の予算額は金融部分を除いて約200億円、そのうち先端産業には10%程度。先端産業支援を頑張っていくのでよろしくをお願いしたい。

○A委員

IoT・AI・ロボット導入支援事業の報告会を3月13日に神戸クリスタルタワーで開催する。地元企業20社が補助金を受けており、そのうち8社が口頭発表、全20社がポスター発表を行う。中小企業がIoTなどを導入して、こんなふうになくなったという身近な例として聞いていただく良い機会であり、これを機に、さらにAI・IoTなどの導入が進んでいけばと思いがあふ。今のところ200名近い参加希望者があり、非常に盛況な報告会になると思う。ぜひとも皆様方にもご参加いただきたい。

○B委員

新産業創造研究機構（以下、「NIRO」という。）が中心になってAI・IoT・ロボット導入を進めていただいているが、我々はAI・IoTを実際に運用する人材育成に取り組んでいる。現在、人材不足だけではなく、産業構造が変わってきている、例えば従来のように、親会社から子会社、孫会社へと安定した仕事が連続してもらえ環境の中では、ものづくりの匠も育ちやすかった。ところが最近では中国の発展や、日産のゴーン社長のように系列会社を無視して安いところを使うという産業構造で、垂直型から水平型が変わってきている。その動きの中で、日本の匠の技術をロ

ロボット化して工場に埋め込んでいかないと、日本の先進性が盗まれるのではないか。そういう意味で、臨機応変に対応できるようなAI・IoTの人材育成というのが重要だと考えている。NIROの事業と連携して、今後も進めさせていただきたい。

○県産業労働部長

AI・IoT関係は、いろいろな取組が続けられており、とにかく期待している。

企業からは、とにかく理工系の人材がいないと聞く。県内の大学で理工系学部を有するのは、神戸大学、県立大学、関西学院大学、甲南大学の4つしかなく、しかも卒業生はほとんど県外に行ってしまう。県内には非常に技術力のある企業があるので、各大学におかれても県内就職についてぜひご協力いただきたい。

(以上)